

【別紙様式 I】 令和4年度 学校評価報告書

学校名 妻田小学校

|               |  |
|---------------|--|
| 厚木市教育委員会の基本目標 | 1 自ら学び、鍛え、未来を拓き、夢や可能性に挑み続ける力の育成【挑戦】        |
|               | 2 自他の命や豊かな感性を大切に、多様性を認めながら共に生きていく力の育成【共生】  |
|               | 3 変化する社会に自ら進んで関わり、人々と協働してより良い社会を創る力の育成【創造】 |

校長名 黒田 環

|                                   |   |
|-----------------------------------|---|
| 学校教育目標<br>豊かな心を持ち、たくましく生きる妻田っ子の育成 | 学校経営の方針<br>学校大好きみんなが集まる、楽しく、安心・安全な学校<br>一人一人を大切に教育活動に努め、学校・保護者・地域の人々みんなが力を合わせ、児童を育て、見守ることにより、誰もが楽しくなり、そして安心・安全な学校づくりをめざします。 |
|-----------------------------------|---|

今年度の重点目標

|   |
|---|
| <p>いのちかがやく教育「げんきな子」強い心と健康な体をもつ子</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>安全・安心な学校づくりのため、危機管理体制を確立するとともに、安全指導の充実を図り、環境整備に努める。</li> <li>健康な心と体づくりのために、体力の向上、食育の推進を含む健康教育の充実を図る。</li> </ul> <p>まなびふかまる教育「よく考える子」学び、考え、行動する子</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>基礎的・基本的な知識・技能の定着を図り、思考力、判断力、表現力を育む授業を行い、自主性・主体性を伸ばす教育活動をめざす。</li> <li>教育活動全体を通して、自己を見つめ、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養い、道徳的実践力を育てる。</li> </ul> <p>ともだちひろがる教育「なかよくする子」だれにでも思いやりのある子</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>豊かな心を育み、自立した人間として他者と共により良く生きるために、自他を大切に人権感覚を育てる。</li> <li>家庭・地域との連携を図り、児童の体験活動を充実するとともに、開かれた学校、信頼される学校づくりをめざす。</li> </ul> |
|---|

| 評価項目・指標等   | 基本目標との関連 | 具体的な取組  | 成果と課題   | 次年度への具体的な改善策  |
|------------|----------|---|---|---|
| 安全指導の充実    | 1・2      | <ul style="list-style-type: none"> <li>避難訓練の実施と、事後指導の充実を図る。訓練後の振り返りを特に大切にしている。</li> <li>避難訓練は実際の災害発生時に近い状況で実施できるよう、工夫する。</li> <li>児童が家庭にいる時の災害時の行動について、保護者と児童と一緒に考えられるようなツールを準備する。</li> </ul> | <p>事前に知らせていない避難訓練を実施し、事後の振り返りのワークシートなどを丁寧に行ってきたが、「災害時にどう行動すれば良いか家庭で話し合っている」割合が下がったことから、家庭・児童への意識付けが課題である。</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>次年度の避難訓練は、回数を1回減らすが、様々な方法で実施するとともに、振り返りの内容も充実させられるよう検討していく。</li> <li>チリリンタイムの内容に、幅広く「安全指導」として防災に関わる内容も盛り込む。</li> </ul> |
| 交通安全指導の充実  | 2        | <ul style="list-style-type: none"> <li>毎月1回のチリリンタイムを継続して行う。(朝モジュールの時間帯に実施する。)</li> <li>ヘルメットの着用や自転車の安全な乗り方の指導など、家庭に協力を仰ぐ。</li> </ul>  | <p>保護者や職員の「交通安全」に対する意識は向上しているが、放課後の児童の実態をみると、できている子も多くいる一方で、まだまだ意識が低い子もいることが課題である。</p>                        | <ul style="list-style-type: none"> <li>毎月1回のチリリンタイムは継続する。</li> <li>放課後の交通安全については、家庭にも協力を仰ぐ。</li> </ul>  |
| 体力づくり週間の実施 | 1        | <ul style="list-style-type: none"> <li>寒くても進んで体を動かし、体を動かすことの気持ち良さを感じさせる。</li> <li>体力づくり週間に合わせ、児童が自分で生活習慣の見直しができるよう、点検カードを用意する。</li> </ul>   | <p>学校全体的には外遊びが好きな児童が多く、体力づくり週間では、校庭に出る機会を増やすことができた。ただ、実施期間が長かったため、他の活動や行事の準備に支障をきたすことがあったのが課題である。</p>         | <ul style="list-style-type: none"> <li>体力づくり週間を年1回の実施とする。</li> <li>持久走については、各学年の体育の授業に組み込む形で実施する。</li> </ul>  |

|                                    |     |   |  |  |
|------------------------------------|-----|---|--|--|
| 感染症対策                              | 1・2 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・清掃、消毒作業は継続する。(特に清掃のない火・木曜は忘れずに実施する。)</li> <li>・検温カードの確認は登校後すぐ漏れなく行う。検温忘れが多い児童は保護者と連携し協力を仰ぐ。</li> <li>・教室内の整理整頓、教室周辺(廊下・トイレ・水道場等)が清潔かどうか日頃から気を配る。</li> <li>・日常の児童への声掛けや給食時の対応など、衛生管理意識は常に高くもつ。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・感染症対策が児童にも教職員にも定着した。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・現段階では、これまで通りの取組を継続していく。ガイドラインが見直されれば、それに合わせて実施していく。</li> </ul>   |
| 基礎・基本の定着                           | 1   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・算数ルーム(3・4年生)の方法を検討し、充実を図る。</li> <li>・「話す・聞く」のめあてを来年度も継続して行う。</li> <li>・朝モジュールの時間等を使って、前年度の漢字や計算練習をする(漢字の広場、前年度の算数ワークシート集の活用)。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・算数ルームは、今年度より地域の方に協力を仰ぎ、定期的にも実施することができた。</li> <li>・「話す・聞く」に関しては、学力・学習状況調査の結果からも成果が出ていることが分かった。</li> <li>・漢字、算数問題の活用については、モジュールの時間だけでは十分にできなかったため、各学年の実態に応じて、指導事項を検討していく。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ボランティアの参加人数に応じて、児童の募集人数を考える。</li> <li>・朝モジュールの時間を利用して漢字の広場に取り組むことで、前年度学年における漢字の書く力を高める。</li> </ul>           |
| 様々な力を育む授業の実施<br>自主性・主体性を伸ばす教育活動の充実 | 1   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・考えたこと・思ったことを書く活動を、学年の実態に応じて工夫して行う(タブレットの活用等)。</li> <li>・1・2年生「先生あのねボード」の活用(上手に話すための手立て。いつ、どこでなど5W1Hが言えるようにする。)</li> <li>・3・4年生は日記を活用して、順序立てて表現できるように育成していく。(日記の指導方法の工夫)</li> <li>・5・6年生は家庭学習ノートに取り組む。(自分の好きなことや苦手なこと、得意なことに取り組む主体性や思考力・判断力・表現力を伸ばす。)</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・1・2年生は、「先生あのねボード」を活用し、指導することができた。</li> <li>・3・4年生は、日記の宿題に取り組んだが、自由作文になってしまいうこともあり、課題である。</li> <li>・5・6年生は家庭学習ノートに取り組んだが、児童によって取組にばらつきが出てしまったことが課題である。</li> </ul>                   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・テーマを決めたり、教科書を利用して書き方を指導したりして、日記の取組を続けていく。</li> <li>・良いノートを紹介したり、力が付く家庭学習ノートの取組み方を指導したりしながら、続けていく。</li> </ul> |
| 道徳的实践力を育む                          | 2   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・道徳ノートを活用する。</li> <li>・児童の書いた意見を発表する。</li> <li>・学年間での教材研究(自分事として捉えられるような発問を考える。)をしっかりと行う。</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・道徳ノートや児童の発言を生かした授業を行うことができたが、学年での教材研究は学年によってばらつきが出てしまったことが課題である。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・教材研究後、学年内交換授業を実施する。</li> </ul>   |

|                           |            |  |   |  |
|---------------------------|------------|--|---|--|
| <p>自他を大切にす、より良い学級集団作り</p> | <p>2・3</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童をよく見て、話に耳を傾ける。</li> <li>・YP・いじめ等各種アンケートを行い、それに基づいた指導をする。</li> <li>・児童・保護者との面談を行う。</li> <li>・職員で情報を共有する。</li> <li>・必要に応じてケース会議を行う。</li> <li>・関係機関と連携し、適切な支援ができるようにする。</li> <li>・学級活動を、意図的に行う。</li> <li>・児童の実態に合った題材を選び自分事として考えさせる。</li> <li>・授業をきっかけにして、継続的に取り組ませる。</li> <li>・委員会活動、クラブ活動の充実を図る。</li> <li>・異年齢集団でのかかわりを通して、上級生へのあこがれをもたせる。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・学年リーダーや児童指導担当、教育相談COに報告し、複数で対応していることや、関係機関との連携、ケース会議の充実等が成果ではあるが、児童の困り感に対して迅速な対応ができていれば未然に防げるものももう少しあったという点が課題である。</li> <li>・児童アンケートより、「友達と仲良くすることができている」に対してA評価が増えたことは、特別活動の充実による成果だと考えられる。一方、委員会活動やクラブ活動等の引継に課題があったので、児童、教員ともに引継方法を検討する。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの困り感に早めに気付いていけるようにしていく。(具体的な事例の紹介、打ち合わせ、研修等の活用)子どもの困り感に気付いたら、今後も、学年リーダーへ⇒児童指導担当or教育相談Coへ⇒管理職へと、スムーズに報告があり、チームで対応できるようにしていく。支援体制の整備もしていく。</li> <li>・委員会活動については、現在の4年生や5年生が、妻田小学校の委員会活動についてより理解を深め、早い段階で、次年度に行う委員会活動への取組に意欲をもてるように、委員会紹介の掲示を行っていく。</li> </ul> |
| <p>地域教材の活用と、地域の方との連携</p>  | <p>3</p>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・HPやメールを活用し、学校の様子を伝える。</li> <li>・地域の教材を発掘する。</li> <li>・地域や保護者の人材を発掘する。</li> <li>・地域の行事などを、学校からもお知らせし、参加を促す。</li> <li>・民生委員さんと連携して情報を共有し、見守りを継続する。</li> <li>・体験活動の充実のため、各学年・各教科のボランティアの計画を立てる。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域行事については、公民館等の行事が徐々に増え、各教室で声掛けをしたため参加する児童が増えたことが成果である。</li> <li>・ボランティア計画を作り、活用し始めたことが今年度の成果である。しかし、コロナ禍以前ほどには戻っていない点が課題である。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ボランティア計画表の活用を充実させていく。</li> <li>・学校運営協議会等で、情報共有していく。</li> </ul>   |

今年度の学校関係者評価委員会からの意見

「中規模の学校であることから、児童一人一人と丁寧に向き合っていて安心できる。」「ISSの活動を行っていて睦合南地区全体の安心・安全の意識が高く、学校・保護者・地域が一体となって児童を見守る体制が整っている。」等のご意見をいただいた。

今年度の学校経営のまとめ ・ 次年度への改善の方針

学校教育目標の具現化に向けて職員全体で取り組むことができ、目標達成と判断されているものが多くみられた。目標達成と判断されたものについては引き続き取組を継続していくとともに、取組が十分ではなく改善が必要とされるものについては、次年度の取組をさらに工夫し、来年度の成果につなげたい。